社会福祉法人信愛報恩会

特 集

信愛病院の社会貢献事業

新年度に想うこと

信愛報恩会 理事長 桑名 斉



元号が令和に代わって初めての暮れから正月に かけては、全国的に良い天気に恵まれました。今 夏の東京オリンピック・パラリンピックを控えて、 まずは幸先がいいと思っていたところ、中国から の新型コロナウィルス感染が世界中に拡大して、 その対策に大わらわの事態になりました。この春 号が発行されるまでには、終息していることを願 うばかりです。昔から、「一寸先は闇」という言葉 がありましたが、幸せなことにそうそう実感する ことはありませんでした。しかし、神戸や東日本 大震災があってからは、次々と地震、災害や急激 な気候変動、さらに今回のウィルスパンデミック が起きると、こうしたことをいうのだと認めざる を得なくなりました。そしてこれから予測される こととしては、オリンピック・パラリンピック後 の経済の減速が、国民生活に大きな影響を与える のではないかと危惧されます。

さて、4月1日から実施される診療報酬の見直し や、いま検討されている介護報酬改定に対応する べく、法人全体でのとりくみが迫られております。 国の財政がひっ迫している現状では、どちらの報 酬も上がる基調にはありませんし、働き方改革も しなくてはなりません。つまり、これまでのよう に頑張って残業をしたり、犠牲的精神で仕事をす ることなどは認められなくなります。裏返せば、 定年制を延長することで元気な高齢者にも働いて もらい、タスクシフト、タスクシェアをしましょ うということですが、体力的な問題もありますか ら、若・壮年者がになう労働以外の役割を分かち あうことになるでしょう。それでも、全労働人口 は減少しますから、いま以上に外国人労働者に頼 らざるを得ません。それには言葉の壁だけでなく、 異なる生活・文化・宗教などの理解・対応も必要

になりますが、いずれも一朝一夕で解決するものではありません。

そこで、信愛グループは東京都の支援のもと、 積極的にICTを活用することによって人材不足を 補えるかどうかの試みを実行しつつあります。し かし、ICT活用の本来の目的は、一人ひとりの疾 病、介護や生活上の情報を、すべての医療機関や 介護施設・事業所などと共有することによってお 互いが理解し、それぞれが必要なサービスをシー ムレスに提供し、人生が終わるまで住みなれた地 域で安全・安心・安楽な生活ができ、「ああ、生き てきてよかった」と感じてもらうことにあります。 特に、私たち社会福祉法人としては、生活保護受 給者はもちろん、生計困難な方や外国人難民など、 経済的に苦しんでいる人たちにも同じようなサー ビスを提供することが使命ですから、こうした事 業の継続が求められているのです。

一寸先は闇かもしれませんが、まずは皆さまと ともにオリンピック・パラリンピックの熱気と感 動を味わおうではありませんか。



信愛報恩会 常務理事 籍 勉

法人の新しい歩み

昨年後半から、介護事業所を中心とした法人ICT(情 報通信技術)導入プロジェクトが進められています。介 護施設での人材不足状況は、2025年問題が控えるこ れからも、しばらく好転しそうにありません。少ない 人員で事故などの不安を抱えたまま働くことは、介護 職員を物理的・心理的に追い詰め、仕事に嫌気をさす きっかけをつくることになってしまいます。職員の労 働負荷を軽減する意味でも、ICT推進は避けて通れま せん。人員が限られる夜間勤務におけるご利用者の事 故や怪我の防止、介護職員の巡回などの業務負担軽減 がセンサーやモニターによって図られれば、物理的な 問題だけでなく、職員の心理的な安心感にもつながっ ていきます。また、介護業務の傍らあるいは終了後に 長時間かけ手書きにて作成していた介護記録が、介護 現場においてリアルタイムに入力されることで簡素化 され、残業が減るなどのメリットも生まれます。法人 としては何より職員の働く現場から、できる限りの不 安・心配要因を取り除き、ご利用者の介護サービスに





集中できる労働環境をつくっていかなければならないと思っています。多くの職員は介護の仕事が好きで、ご利用者に喜ばれるサービス提供ができることを誇りに思っています。

しかし、人手不足が招く仕事の偏りや休みも取れないなどといった、介護業界での現状を伝える報告や記事をよく目にします。運営者の責任として、介護の仕事に集中してもらう一方、しっかり休養や休憩がとれるような職場環境にもっていく必要があります。ICTのほかにも、介護職以外の専門職の活用やボランティアの方々の協力をいただき、1人で何役もこなさなければならない業務の見直しなどを行い、メリハリのある働き方ができるようにもっていければとも思っています。法人各事業所の現状を考えると、まだ十分とはいえませんが、職員が働きやすい環境提供を今年も続けていくつもりです。

·x··4··4··4··x·4··x·4··4··x·4··4··x·

信愛病院 院長 越永 守道

圧倒的な利便性を目指して

昨年度信愛病院では、介護療養型病棟から転換した医療療養病床52床と回復期リハビリテーション病床48床の稼働に集中してきました。その結果、患者サポートセンターをはじめ職員の尽力により安定した病棟運営を実現しています。本年度は、当院の回復期機能をより一層向上させるため、回復期リハビリテーション病棟を60床程度に拡張する計画です。これにより信愛病院でリハビリを行い、在宅復帰をする患者さんを増やすことで地域貢献したいと考えています。またリハビリの拡充に伴い、医師をはじめスタッフの増員も推し進めます。また法人内での重要な役割として、超高齢化社会の到来を見越して、国が推進する「地域包括ケアシステム」の構築に邁進していきます。

この地域包括ケア構想は、高齢者が、例え認知症や身体障害をもっていても、住み慣れた地域で過ごしていけるように地域社会を変革しようとするものです。理想的には、病気の時には時々入院することはあっても、多くの時間を自宅など地域で、その人らしく生活できるようにすることを目的としています。私ども信愛病院は、信愛報恩会





に属する特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、訪問看護ステーション、看護小規模多機能居宅事業所などと協力して、この地域包括ケアを提供するための連携システムの構築に努めてきました。理想的には、信愛の利用者さんが病院にいても、老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅にいても、そこの職員がその人のことを理解している状態にしたいと考えています。具体的には、メルタス(医療と介護の連携システム)を導入して、医療介護の別なく各事業所間で情報共有を始めています。これが完成すれば介護系事業所の利用者さんが病気になり信愛病院に入院することがあっても、それまでの投薬内容や日常生活レベルなどの情報を知ることが容易になりますし、逆に入院中はどのような状態であったかを各事業所でも把握できるので、より質の高いサービスを効率的に提供できるものと考えています。

信愛病院は、この地域包括ケアシステムを構成する中核 としての機能充実を図ると共に、総合的な医療介護サービ スを提供するために圧倒的な利便性を追求していきます。

信愛の園 施設長 後藤 晴文

新年度を迎えて

信愛の園では、今年50周年を迎えた特別養護老人ホームの他、信愛デイケアセンター、ホームヘルパーステーション信愛、清瀬市在宅介護支援センター信愛、きよせ信愛地域包括支援センターの事業を運営しています。清瀬市で地域に根差した福祉サービスに取り組んでおり、地域の皆様に支えられ地域と共に発展してきたと言っても過言ではありません。

我が国は、超高齢化・超少子化・無縁社会など幾つもの課題を抱え、かつて経験したこともない領域に突入しています。団塊の世代が75歳以上に達する2025年問題をはじめ、2040年には高齢者人口がピークを迎え、人口減により多くの自治体が消滅するといったセンセーショナルな報道もありました。介護保険法の施行以降、施設サービス・在宅サービス共に民間企業の参入によりご利用者ご本人の選択肢が増えた事は喜ばしい事ですが、競争の激化により経営環境は厳しさを増しております。5人に1人が75歳以上という超高齢化社会の到来と労働人口の減少が待ち受け、介護職員も30万人が不足するといわ





れ、経営環境は厳しさが増すばかりです。

昨年より副施設長を迎え施設全体の運営マネージメントの強化を図り、各事業では多様化するご利用者のニーズと行政の掲げる介護保険サービス計画への対応を課題に掲げ、日々のサービスをより安全に安定的にご提供できる体制維持と強化に努め、地域の介護インフラを引続き担ってまいります。私たちの介護サービスは、人生・生活に欠かせない大切な仕事であり、国の施策として「介護離職ゼロ」が重要政策として位置付けられているように、福祉に携わる私たち職員が日本経済をも支える役目を担っているとの自信と自覚を持ち、これからも真摯に介護と向き合ってまいります。

今後信愛の園は、ICT導入による業務の品質向上と信愛報恩会として取り組んでいる地域包括ケアシステムの更なる推進及び高齢者・障害者・児童・生活困窮等の垣根を超えたニーズに応え、地域の医療・福祉の各サービスをワン・ストップでストレスなくご利用頂ける日の到来を目指してまいります。

信愛のぞみの郷 施設長 篠原 達也

来て良かったと思って頂ける ように

施設長就任2年目の昨年度は、私にとって怒涛のごとく過ぎ去った1年でした。人材確保・対応困難なご利用者への対処や支援、自然災害に関する対処・対策、働き方改革への対応、ICT化の着手と、これまで経験した以上の様々な難題に直面しました。まだまだ解決しきれていない課題が残っていますが、そんな中でも職員の皆さんの頑張りと後援会、町会、ボランティアといった地域の皆さまのお力添えのおかげで、大きな事故やインフルエンザなどの感染症の流行もなく、ご利用者の皆様には、落ち着いた日々を過ごしながら、様々な楽しいイベントを提供することが出来ました。この場を借りて皆様に感謝を申し上げます。

昨年度は魅力的な職場づくりを目標に、働きやすさと働きがいを向上するための基礎として、長時間労働の削減・有給休暇の取得促進・ICT化による業務負担軽減・業務見直しによる多様な働き方の創出・法人理念の業務への落とし込み・新人事考課による処遇への反映などに取り組んできましたが、実はこれら全てが





複雑に絡み合っている為に一足飛びとはいかず、なか なか目に見えた成果をあげられていないのが現状です。

少子高齢化により深刻化する人材不足を背景に、働く人にとってこれまで以上に魅力的な職場であることが求められていることは確実であり、ご利用者や地域の皆様により良いサービスを適時適切に提供する為にもとても重要なことであると考えています。

今年度は、昨年度に直面した難題と魅力的な職場づくりに必要な様々な課題に対して、どんなに困難であったとしても決して諦めずにチャレンジ精神を持って引き続き取り組んで行きます。

ご利用者・ご家族・職員が共にのぞみの郷に来て良かったと思え、地域の皆様にものぞみの郷があって良かったと思って頂けるように職員一同力を尽くしていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

信愛苑 苑長 分須 隆幸

信愛ワンチームで安心した 暮らしの提供を

昨年は、皆さんもご存知の通り元号が変わり、「令和」になりました。信愛苑には「大正」生まれの方もいらっしゃいますので、「大正・昭和・平成・令和」を生きてきた方が何人かいらっしゃいます。激動の世の中を生き抜いてきた知恵や経験、そして苦労には常日頃、私も脱帽で、お話を聞いていると「まだまだヒヨッコだなぁ」と学ぶことの多い日々です。

昨年、私はテレビから学んだこともありました。それは秋に開催されたラグビーワールドカップで日本中が沸き上がった時のことです。体格や体力に劣る日本人が強豪を次々となぎ倒して快進撃をし、それまであまり関心がなかった私もテレビにくぎ付けになりました。信愛苑の入居者も同じで、平均年齢80代後半にもかかわらず、苑内の大型テレビの前に自然に集まって元気に応援したものでした。ワンチームという言葉がはやりましたが、選手だけではなく観客までが一体になって日本中が活気づいたと思っています。こうしてみると個人個人の集まりでも心が一つになると、本





来以上の力が発揮できるような気がします。つまり1+1=2ではなくて1+1=3になることもあるのかと思います。最近は信愛の園のショートステイやデイケア、訪問介護、信愛病院の外来や入院、退院後の訪問看護を利用する方が増えてきましたし、今年になって訪問リハビリを利用する方も出てきました。従来以上に我々も心を一つにして「ワンチーム」を常に念頭に置いて皆様に安心して暮らせる場所を提供し、「信愛にお世話になって良かった」と言っていただけるように頑張りたいと思います。

最近ちょっとうれしいニュースもありました。信愛 苑や信愛報恩会を去って行った入居者や職員の方が「やっぱり、信愛がいい」と言って、戻ってきてくれる 方が出始めたことです。これからも、この言葉を励みにして、そしてもっと多くの人からこのような声をいただけるように努めたいと思います。

しんあい清戸の里 支配人 平野 昇 しんあい清戸の里6年間の 歩み

日頃より当施設の運営に多大なるご支援、ご協力を 賜り心から感謝を申し上げます。

昨年度(2019年)は、東京都ICT活用促進補助事業を活用し、グループホームひまわりに記録・見守りシステムを導入いたしました。ICTとは、情報通信技術(インフォメーション&コミュニケーションテクノロジー)の略です。インターネットをはじめとした通信技術を用いて、円滑なコミュニケーションを図ろうとするサービスや技術のことです。なぜ、ICTを導入するのか?

現状でも深刻な人材不足ですが、これから約800万人いるといわれる団塊の世代(昭和22~24年生まれ)の方々が2025年に75歳になり、2040年には、団塊ジュニアも65歳に到達し始め、超高齢化社会となります。その将来を見据えICT技術を用いて業務の効率化を行い、多様な人々が働きやすい環境を整え、2040年に向けた長いスパンの人材不足への取り組みです。

今後も積極的にICTを導入していきたいと考えております。ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。





さて、2019年は、日本中を夢中にしたラクビーワールドカップ『ONE TEAM』に沢山の感動をいただきました。2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが行われます。今から楽しみですね!

本年度も、昨年同様職員一丸となり、ご利用者・地域のために、力を合わせ頑張ってまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後に、当施設のアイドル犬『まめ』は、今年の夏で

14歳になります。人間の年にすると80歳前後です。昨年末から、夜鳴き、室内でのお漏らし、視界は視野が狭くなり、耳も遠くなり、初期の認知症かな? 言葉を発することができない分、何を訴えているのか?くみ取り、1日でも永く生きてくれたらいいな。



訪問看護ステーションほほえみ 所長 上村 貴代美

在宅療養を支える「訪問看護」と「看護小規模多機能事業」



訪問看護ステーションの愛車「ほほえみ号」は、開設から26年間この地域を走り回ってきました。「ほほえみの車よく見ますよ」と、私達は信愛の宣伝カーだと思っています。時には深夜の看取りに向かうこともあります。ご家族と一緒にその人らしい旅立ちの装いを整えます。趣味のハイキングの服装であったり、大切にしていた着物であったり、その方の人生の物語を振り返りながらご家族を労います。訪問看護とはそのような仕事です。

私たちは、26年の訪問看護の歴史を通して地域の大きな変化を感じています。以前は賑やかだった巨大団地は今静まり返っています。人口が減ったのではなく、病気を持ちながらの一人暮らしや、夫婦とも要介護状態で、外に出られない高齢者が急速に増えているのです。訪問看護は医師や介護サービスとチームを組み生活の支援を行っていきます。さらに、今後入院や施設への入所が難しくなってくる状況を踏まえて、人生の終末期にどのような医療を望み、どこで生活していく

かという問題にも、身近な相談相手となることが訪問 看護師の大切な役割です。そのために訪問看護ステー ションほほえみは、人材の確保を行い、看護を必要と する人に速やかに入れる体制作りを行っていきます。

また、訪問看護ステーションが運営する看護小規模多機能型居宅介護(複合型ほほえみ)は、清瀬市に1か所しかない介護保険サービスです。介護度の重い方や、人工呼吸器など医療機器をつけた状態で、自宅だけでは介護が大変な方を受けるサービスです。通いや泊りを臨機応変に利用し、家に居る時はなじみの看護・介護職員が訪問します。「ここがあるから自宅で看ていける」と

いう声を励みに7年目を 迎えますが、まだまだ認 知度が低いと感じていま す。今年度はこの制度を、 もっと知ってもらうことに 力を入れていかなければ ならないと思っています。



スタンバイ中の「ほほえみ号」

のぞみの郷 在宅部門 センター長 三川 和則 より良い 施設づくりを



昨年度は、在宅部門において『挨拶・丁寧・思いやり』を目標に掲げ取り組んで参りました。その結果、各部署ともご利用者やご家族、職員の仲間や関係者の皆様に対して、今まで以上のサービスを提供できたと思います。しかしながら、足りない部分もあり、今年度も引き続き継続し完成度の高いところまで持っていきたいと思います。

今年度は、居宅事業所において職員を3人から4人体制に変更し、より多くのご利用者に楽しく生きがいを持っていただけるよう、サポートに努めていきたいと考えております。包括においては、新人及び現職の力が今まで以上に一つになるように力を合わせて、共に東西がライバル関係のように成長していくよう配慮していきたいと思います。通所介護においては、ご利用者に対しての声掛けを重視し、認知症予防及び「明るく楽しく温かいサービス」を提供できるように努めます。

最後に、職員に対しても働きやすい環境を提供し、施設一丸となって、より良い施設づくりを目指していきたいと思います。

グループホームひまわり ホーム長 田口 弘子 できることから はじめる



ひまわりには「寄り添うケアの実践」「有する能力に応じて自立を支援」「地域の一員として関りを深める」という認知症ケアの3つの理念があります。今年の夏で開設7年目を迎えますが、ご入居者の心身の状態も加齢等に伴って徐々に低下するなどの変化がみられています。ここで初心に戻り私たち職員が目指すケアの方向性を明確にし、ご入居者が日々どのような状態になっても安心して生活していただけるようにケアや業務を遂行していきたいと考えます。

昨年度よりホームにおいてもICTを導入し、記録のデジタル化や見守りシステムの導入など、入居されている方も働き手も取り巻く環境は大きく変化してきています。導入することで「見える介護」「わかりやすい介護」が一般化し、それが他所との連携の質を高め、職員のモチベーションを上げ、さらには入居者のサービスやケアの質の向上に繋がっていくものであることを実感しています。

今後も「できることからはじめる」をモットーに、地域交流やICTの定着、職員育成など様々な課題に着手していきたいと考えています。

信愛病院の社会貢献事業

信愛病院 患者サポートセンター:井上孝義

■ 社会福祉法人による社会貢献

社会福祉法人には「社会貢献事業」の実施が義務付けられていることをご存知ですか? 各地域では既に多くの社会福祉法人が様々な取り組み(アウトリーチ活動)を行っています。清瀬市でも清瀬市社会福祉協議会が中心となり「ひとまず相談窓口」を設置しています。この相談窓口は、「どこへ相談していいか分からないとき、まずは身近な社会福祉施設がお話を伺います」というものです。信愛報恩会からは、信愛病院、信愛の園、しんあい清戸の里が窓口となり、市内の34施設が参加しています。

今回は信愛病院独自の「社会貢献事業」をご紹介しましょう。

■ 無料医療相談会

信愛病院では2016 (平成28) 年度からNPO法人北 関東医療相談会と共に「無料医療相談会」を毎年11 月に開催しています。昨年は11月10日に信愛病院で 4回目となる無料医療相談会を開催しました。

相談会では、医療に結びつきにくい方への医療支援として、無料の健康診断を提供しています。日本に在留資格のない難民申請中の方や在留資格があっても経済面、言葉の問題で病院に来られない方が来院されました。当日は、日本、モンゴル、ギニア、バングラデシュ、スリランカ、ナイジェリア、カンボジアの7カ国、計38人(男性17人、女性21人)が集まりました。スタッフは信愛病院以外の方もボラ

ンティアとして参加しました。医師や看護師、医療ソーシャルワーカー (MSW) のほか、英語やフランス語、タガログ語などの通訳ら計84人が対応にあたりました。

多くの外国籍の方に通訳を付けた健康診断を実施することで、自身の健康管理に貢献し、また疾病予防や病気の早期発見、治療につなげることができます。信愛病院では、このような活動をとおして地域社会へ医療・福祉の増進を図っています。

■ 越年冬祭り(炊き出し)

続いて信愛病院の外で行う「越年冬祭り」という活動をご紹介します。信愛病院の近隣には、私たち以外にも無料低額診療事業(脚注)を行う施設があります。その近隣施設のMSW仲間が集まり、毎年NPO法人ふるさとの会主催の東京山谷地区で行われる「越年冬祭り」という炊き出しに参加しています。

このふるさとの会では、毎年行政の窓口が閉まる年末年始(12月29日~1月3日)に路上生活者や地域の日雇い労働者等を対象に、炊き出しや物資の提供を行っています。今回の越年冬祭りは2019年12月29日から1月3日に開催しました。私は12月31日と1月2日に参加しました。2日間とも天候に恵まれ、青空のもとで参加することができました。炊き出しのボランティアに参加される方は各日20名前後で、私のように定例で参加する方もいれば、初めて参加される方も多くいらっしゃいます。職業も高校生や







大学生、会社員や主婦、教育のためでしょうか小学 生のお子さんを連れて一緒に参加されるお母さんな ど様々です。当日は初めて顔を合わせる方々と一緒 に活動をしますがとても新鮮で良い刺激になる時間

でもあります。

ボランティアの活動内容は、大量の肉や野菜を切る作業が大半となります。食材を切った後は、会の方が大鍋で調理をします。調理の間、希望する方には会の方が山谷地区を案内してくれます。山谷地区には日雇い労働者向けの安い宿がまだ残っていますが、現在は街並みも変わり、訪日外国人向けのホテルが目立つようになってきました。

1時間程の山谷散策から戻ってくると丁度料理が出来上がっています。私が参加した2日間のメニューは、12月31日が豚丼、1月2日が開花丼(豚丼に卵を加えたもの)でした。参加しているボランティアと職員で出来上がった料理を食べてから午後の活動再開です。大鍋2つ、ごはん入りケース5~6箱、容器や割り箸、組立て式テーブルを車に載せ、調理場から隅田川河川敷に20数名のボランティアと移動します。河川敷に到着すると、既に100名以上の方が列を作って待っています。12月31日の豚丼は221食、1月2日の開花丼は254食を配食しました。

「越年冬祭り」では炊き出し以外にも、生活や健康

◆写真①~③:無料医療相談会(2019.11.10)の様子 ◆④:越年冬祭り(2019.12.29 ~ 2020.1.3)の様子



に関する相談が必要になることも予想されます。これに備え、無料低額診療事業施設のMSWに参加を呼びかけ、一緒に参加しています。

■ 最後に

今回は社会福祉法人に求められる社会貢献事業として「無料医療相談会」と「越年冬祭り」をご紹介しました。もちろんこれ以外にも春号で取り上げたバザーをはじめ、様々な社会貢献事業に取り組んでいます。今後も無料低額診療事業を実施する医療機関のソーシャルワーカーとして、患者さんやご家族の方との関係性を築き、個々に配慮した支援を考え、生活を支えていけるよう取り組んでいきます。

【脚注】 無料低額診療事業:福祉医療を実践する医療機関であり、経済的な理由で医療を受けられない方に負担を軽減し、医療を提供します。また公開講座等をとおして地域住民に病気予防の意識を高めるなど、社会貢献活動を行っています。

活動について詳しくお知りになりたい方

信愛病院 患者サポートセンターまで

J042-491-3211

日曜・祝日を除く毎日 (9:30~12:00・13:00~17:00)

(次の「しんあいさん」コーナーでは、患者サポートセンターの職員、井上孝義さんのご紹介です。)









さん このペーシ

このページでは、信愛報恩会のスタッフや ボランティアさんをご紹介します。



井上 孝義 いのうえ・たかよし

信愛病院 患者サポートセンター 副センター長 医療ソーシャルワーカー

東京都社会福祉協議会 医療部会 MSW 分科会長 東京都医療社会事業協会 元理事 東京都難病相談・支援センター 相談会協力メンバー 小平市医師会 事業協力 (難病患者訪問診療同行業務) 東京都在宅療養推進会議 他職種ポータブルサイト検討部会 委員

※MSWとは、医療ソーシャルワーカー (Medical Social Worker) の略

信愛病院の患者サポートセンターでは、どのような仕事をしているのですか?

信愛病院を利用希望している、または利用している患者さんや家族からの相談を受け対応している部署です。具体的な内容としては、①入院相談 ②入院中に生じる生活問題に対しての相談 (医療費や生活費のこと、社会保障制度利用についてなど) ③退院後の方向性や生活について、などが主な内容です。

信愛で働いてきた中で、印象に残っていることはありますか?

今年の3月で勤続30年を迎えました。私が入職した平成2年は、当時の常務理事が前年に全国福祉医療施設協議会を立ち上げたことで、信愛病院が無料低額診療事業施設として他の無料低額診療事業施設を牽引していました。

「大変なところに入職してしまったな」というところからの始まりでした。案の定、入職 I 年目から都内の無料低額診療事業施設のMSW分科会に参加し、先輩の指導を受けながら必死に活動していたことを思い出します。

そうした信愛の気風から、早い時機にアウトリーチの必要性や意義 について意識することが出来たと思っています。

今の仕事を選んだ理由を教えてください

もともと人と関わる仕事に就きたいと考え、大学は社会福祉 学部を選択しました。

社会福祉を学ぶ中で、相談業務の職種に興味を持ち、3年時の現場実習先が病院であったことがMSWになるきっかけでした。

心がけていること・これからの目標などはありますか?

病院で働くということは、体や心が弱っている方を 支えていくことですから、誠実に対応していかなけ ればなりません。常に相手の話をよく聴き、理解す ることに心がけ、相談者より話しを引き出せるよう にしています。

経験を積むことにより良い意味での慣れは必要ですが、勤続30年にあぐらをかかないように、常に緊張感をもって患者さんやご家族と接して行きたいと考えています。



座右の銘は、「常に適当であること」 適当とは、雑やいい加減という意味で はなく、「ちょうどよい」「相応しい」な ど、程よくその時々の対応をするという 意味です。



休日は、所有して いる3台の車の洗 車やドライブなど でリフレッシュし ています。

コラム

こころの窓から

笠井 仁

信愛病院 カウンセラー





「カウンセリングを受けるということ」

カウンセリングというと、聞いたことはあった としても、誰にでもなじみのあるものというわけ ではないかもしれません。カウンセリングには、 心に病気をもっていたり、心の弱い人が行くもの と思っている人も少なからずいると思います。

カウンセリングは、基本的にはお話を通して進められます。年少のお子さんであったり、言葉に障害があって、思いを十分に伝えられない場合には、遊びや絵を描く、ものをつくる、楽器を使うといったことをしながら進めていくこともあります。言葉や遊び、描画や造形、音楽といった自分を表現することを通じて、自分の心のありようを整理していこうとするのがカウンセリングです。あるいはとらわれから自由な心を得て、さらには自分自身を高めていこうとするところまで目指していくこともあります。

カウンセラーとしてさまざまお話を伺っていると、目に見える形をともなった成果が得られなかったように思えることもあります。それででもありますした本人は、くもっていた表情が晴れているとを考えやすくなったように感じられているとならならないものです。話に耳を傾けて思いではのでから、安心ともあるではあるかられません。自分から放して」「自分から離して」みることでもあるのです。

何も話したくないと思うときもあるはずです。うまく言葉にできないと思うこともあるでしょう。

そのようなときでも、無理に言葉を引き出そうとすることなく、言葉が出てくるのを待って、ただ傍らにいてくれるだけのこともあります。あるいは、心の内にあるものに一緒に思いを馳せながら、言葉にして紡いでいこうとすることもあります。気が急いて自分の思いをうまくとらえられないときには、少しずつ息を合わせながら心のリズムを整えて、じっくりと自分に向き合っていく心の構えを立て直していくこともあります。気持ちを抑えることができず爆発する感情に、ただただひたすら向き合ってくれることもあるかもしれません。

家族や親子の間の困りごとであれば、家族で一緒に集まってお話をすることもあります。当事者同士で話をしているだけでは煮詰まってしまうようなことも、第三者を交えて話をしてみると違った視点が得られることがあるものです。あるいは、家族の間のお話の流れを多少なりとも交通整理できると、解決が見つかりやすくなることもあります。アルコールや薬物の依存症など、同じような困りごとを抱えている人たち同士で話し合いをしてみると、互いに支え合っている感覚に勇気づけられ、いま一歩のところで踏みとどまることができるようにもなるものです。

思いの丈を 受けとめても らえる機 に利 用して さると いいですね。



100年時代を生きる



「生涯現役」を考える

人生100年時代ということは、かつての"現役-定年-余生"のパターンが、まったく変わってくることを意味し ます。昭和50年代くらいまでは、55もしくは60まで働 いてあとは余生を…と、自分の終盤人生を描くことはサラ リーマンにとって不思議なことではなかったはずです。し かし、今や新聞などで逝去された人の情報を見るにつけ、 90歳代の享年はもう珍しくありません。そして、働く期 間も65、70歳まで、いや元気なら75~80歳までも、 といった空気も伝わってきます。まさに「生涯現役」を誰 しもが考えなければならなくなっている、といっても過言 ではありません。身体(からだ)が元気で寿命が延びるの はけっこうなことですが、高齢になってもやりがいを持っ て「楽しく働く」ということは、人にもよりますが決してた やすいことではありません。職場の雰囲気、働く仲間や経 営層の理解といった "相手側"の受容も大事なことですが、 まず、本人の意識がスイッチできているかが問題となる 場合があるからです。特に60歳ぐらいまでの第1次現役 時代、部下を大勢持っていたような管理者層は要注意で す。高齢であっても生き生きと働ける職場では、男女・年 齢・職歴などを意識することなく、「フラット」な関係でそれぞれの持ち味を出しているところが多いと聞きます。ということは、高齢社員(職員)自身が「チームの一員」として、年齢・性別などを意識せず役割を果たすことができる



かが問われます。以前はどんな重要なポジションに就いていたかなど全く周囲に意識させず、一人の職場仲間として振る舞えるか。これをとても難しく感じる人々が少なくないように思います。そのためには、若い頃から「権威主義的」な言動をせず、どんな相手に対しても同じ態度で接する、といった習慣を身につけることが大切なことです。相手が誰であれ「一人の人間」として尊厳を守る態度を貫く、そんな意識を持ち続けられるのであれば、いくつになっても楽しく仕事ができるのではないでしょうか。

鐙 勉 (信愛報恩会 常務理事/認知症予防専門士)





食のバランスチェック

今回より、食のバランスチェックについてお話をします。食生活は個人差があり、なかなか偏りに気付き難く、気付いている人でも習慣を変え難いところが厄介です。生活習慣病と栄養については沢山の情報がありますが、一時的に頑張れても、長く続けられなかった失敗例もよく聞きます。栄養士である私自身も、毎日の食事がバランスのとれたものか迷うことも度々です。春号では、栄養のバランスがとれた食事の組み合わせの目安として「主食」・「主菜」・「副菜」を紹介します。「主食」は、ご飯・パン・麺類などで糖質を多く

主菜

含みます。「主菜」は、肉・魚・卵・豆腐など主に蛋白質と脂質を多く含む料理、「副菜」は、野菜・海藻・きのこなどビタミン・ミネラル・食物繊維を多く含む料理です。例えば、昼に菓子パンだけの食事を考えると「主食」のみの食事ですが、ゆで卵とサラダを加えれば「主菜」と「副菜」が揃った食事になります。

長期間の食生活の偏りで生活習慣病のリスクが高まる前に、健診結果をみて生活習慣改善につなげようと頑張っている方に、中高年はフレイルの予防に、まず気付いたところから始めてみましょう。

「主食」・「主菜」・「副菜」が揃った食事かな?

1日1食だけでも変えてみよう! といった感じが第 一歩です。

次回から**「主食」・「主菜」・「副菜」**3つを簡単に揃えられる工夫や料理、食事の量などについて紹介していく予定です。

相澤 かおる (信愛病院 管理栄養士)



人事異動報告

1月16日付 信愛病院 事務長 石尾 勝

イベント 2020年6月6日 🖽

新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、開催日が変更 または中止になる場合があります。

- ●しんあい介護セミナー『心の栄養補給』 13:30 ~・信愛ふれあいホール ※詳しくは同封のチラシをご覧ください。 問合先:法人事務局 → 042-433-4300
- ●しんあい清戸の里 感謝祭 6周年 11:00 ~ 15:00 問合先: 1042-493-5623 バザー・屋台・イベント開催



今秋 開催

バザーは2014年から毎年9 月に開催していましたが、天 候の影響等を考慮し、今年は 秋に開催する予定です。詳細 は信愛の友夏号でお知らせい たします。

vol.1



こんにちは。きよせ信愛地域包括支援センターにて、清瀬市竹丘・梅園・ 野塩・松山地区の生活支援コーディネーターをしている森尚哉です。今回 より、私の活動報告を掲載させていただきます。

関心をお持ちいただけた方は、どうぞお気軽にお問い合わせください。

10の筋トレ『梅園にこにこ倶楽部』立ち上がりました!

今回は、信愛が拠点とする梅園地区で2月7日(金)に開催した「10の筋トレ『梅園にこにこ倶楽部』のご紹介です。私た ちコーディネーターが推進するこの運動は、音楽を聴きながら10種類の運動をするもので、イメージとしてはラジオ体操 みたいなものでしょうか…。最初は4種類、そして3~4ヶ月後に4種類の運動を追加し、最後には10種類の運動となり ます。とても簡単な運動ですので、どなたでも気軽に始められます。

『10の筋トレ』は、地域の方から「やりたい」「やってみたい!」という声があがり、本年度より開始して、既に13団体が立 ち上がりました。多くの皆様から「これなら私にもできるわね」「友人にも紹介したいわ〜」という声をいただいています。 13の団体の中には、4人でお部屋の一室で行っている方々もいます。

今回の『梅園にこにこ倶楽部』は、梅園地域で最初の団体ということもあ り、多くの皆さんにご参加いただけました。

「身近で気軽に参加できる運動の場」しかも「無料で実施できる場所」とい う皆様からのご要望をやっと実現でき、会場で皆さんの喜ばれる姿をみ たときには、私自身もコーディネーターとして『良かった~!』と思えた 瞬間でした。

皆さんの笑顔をもらって、私も邁進していきたいと思います。

連絡先: きよせ信愛地域包括支援センター 2042-492-1850



ご寄付のお願い

信愛報恩会は1909 (明治42) 年に地域から疎外された貧しい結核患者の生活を支えることから始まり、 以来100余年、キリスト教の精神に基づき、清瀬市と荒川区にて、社会福祉法人として医療・介護・福 祉事業を行っております。皆様からのご寄付が社会福祉事業を行う上で、大きな支えになっています。 是非ご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご寄付の方法

郵便振替: 番号 00170-8-121682 **口座名**: 社会福祉法人信愛報恩会

銀行振込:三菱UFJ銀行所沢支店 普通預金0428829 **口座名**:社会福祉法人信愛報恩会寄付口 上記のほか、各事業所窓口にてご寄付の受付をしております。

- ●当法人は東京都より税額控除対象法人の認定を受けており、個人の皆様からの寄付については、確定 申告時に所得控除に代えて税額控除の選択が出来ます。
- ●ご寄付いただきました方で、お名前の公表に同意された皆様のご芳名を会報誌「信愛の友」に掲載さ せていただきます。次号にて2019年11月より2020年5月までのご寄付について報告の予定です。



表紙の「信愛の園の桜」 およびP.9「信愛病院」、 P.12「信愛教会」の挿絵は、 信愛の園ボランティアの 田辺峰雄さんの作品です。

「真実の愛 |

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、 高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだた ず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべて を忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」







新しい年度が始まりました。信愛報恩会の信愛とは信じ、愛するということ です。ではその愛とは何でしょうか。聖書には愛について書かれた箇所がいく つもありますが、コリントの信徒への手紙Iに記された愛の言葉が分かりやす いのではないかと思います。愛は忍耐強く、ねたまず、自慢、高ぶり、恨みな どを抱かないと記されています。でも私たちの生活から考えて見るとなかなか 難しいですね。しかし「愛」という言葉に「主イエス」という言葉を置き換えて 読むと、イエス様が私たちに示された神様の愛がわかります。私たちがどんな に弱くても、人を愛することが難しくても、それでも主イエスは私たちを忍耐 強く愛してくださっている喜びがあるのです。



集会のご案内

主日礼拝 日曜日

- 信愛病院内外来 $9:20 \sim 10:00$
- 信愛教会礼拝堂 $10:30 \sim 11:45$

チャプレンだより

ホスピス緩和ケア病棟で、男気のある70代男性患者さんと出会い、夜の世界で生き てこられたお話を楽しく聞かせて頂いていました。時折、神についてお話をすると「神な んていない。死んだらなくなるだけ。」とニヒルな笑みを浮かべ反論されていました。ある 時、読書家である事がわかり、よろしければと聖書を差し上げました。すると意外にも、 「自分の人生で聖書を頂けるとは思わなかった。」と涙ぐまれたので驚きました。その後、 「毎晩聖書を読んでいますよ。難しい…。でも解説は要らない。」と仰っていました。ある 日、「もうそろそろのようです。」と力ない声で仰いました。私は聖書が語る神の愛、キリ ストの十字架の意味、永遠の命についてお話しし、信じて是非神に思いを向けてほしい事



今村 愛喜

を伝えました。珍しく「はい。」「はい。」と真剣に聞いて下さいました。そしてその約2時間後に天に召され、 驚いて駆けつけると微笑んでおられました。彼はきっと神の御手の中にある事を思い、涙と共に祈りを捧げ ました。いつか神の御元で「ほら、なくならなかったでしょ。」と笑って再会する事を楽しみにしています。

事業所一覧

- 法人事務局 東京都清瀬市梅園 2-3-15 ♪042-433-4300 特定有料老人ホーム信愛苑 清瀬市梅園 2-4-4 ♪042-491-8100
- 信愛病院 東京都清瀬市梅園 2-5-9 → 042-491-3211 ● 信愛訪問看護ステーションほほえみ 3042-495-8276
- 特別養護老人ホーム信愛の園 東京都清瀬市梅園 2-3-15 ▶042-492-1551・信愛デイケアセンター ▶042-492-5353 きよせ信愛地域包括支援センター 🔰 042-492-1850・清瀬市在宅介護支援センター信愛 🤰 042-492-1811 ホームヘルパーステーション信愛 → 042-492-1530
- サービス付き高齢者向け住宅しんあい清戸の里 東京都清瀬市下清戸 1-305-1 🤰 042-493-5623 信愛訪問看護ステーションほほえみ → 042-493-5686・しんあい居宅介護支援事業所ほほえみ → 042-494-7676 複合型ケアほほえみ(看護小規模多機能) ≥042-493-5685・しんあい清戸の里グループホームひまわり ≥042-493-5671
- ●特別養護老人ホーム信愛のぞみの郷 東京都荒川区西尾久 1-1-12 →03-3893-3517 西尾久東部在宅高齢者通所サービスセンター →03-3893-3515・尾久居宅介護支援センター →03-3893-3572
- 西尾久地域包括支援センター 荒川区西尾久 1-32-8 → 03-3893-3555・西尾久高齢者みまもりステーション → 03-3893-3550 東尾久地域包括支援センター 東京都荒川区東尾久 3-31-8 リリーハイツ 101 → 03-5855-8513
- 東尾久高齢者みまもりステーション → 03-5855-8514

行:2020年4月15日 次回の特集は、『介護現場におけるICT導入プロジェクト』です。 皆さまより、ご意見・ご感想をお待ちしております。 編集発行人:信愛の友編集委員会 鐙 勉

連 絡 先:〒204-0024 東京都清瀬市梅園 2-3-15 **Mhonbu@shin-ai.or.jp ♪**042-433-4300 **M**042-433-4301